

(様式2) 平成29年度【自己評価報告書】

学校番号	学校(園)名
22	川崎市立中原中学校
校長名	伊藤 民子

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<p>「自主自立の精神を養う」</p> <p>(1)自ら学ぶ力を身につけよう (2)互いを認め尊重し合おう (3)広く社会に目を向けよう (4)社会性を身につけよう (5)健康な生活を心がけよう</p>	<p>1 自ら学ぶ力を身につける [主体的に学習に取り組む態度を育てます]</p> <p>①学ぶ楽しさが味わえる授業(個人・全体(グループ)一箇の学習の流れ)を目指します。 ②生徒一人ひとりを伸ばすための指導方法の工夫や改善に努めます。 ③生徒が自ら考え、課題解決への意欲がもてる授業を実践し、自分の考えを広げたり深めたりする場を大切にします。</p> <p>2 互いを認め尊重し合う[「こころ」「いのち」を大切にします]</p> <p>①道徳の研究推進校として、「考えを伝える」「考えをつなぐ」「考えを積み上げる」ことを大切にします。 ②一人ひとりの生徒の教育的ニーズに対応した教育活動を推進します。 ③ユニバーサルデザインを取り入れた教育活動を目指します。</p> <p>3 広く社会に目を向ける[「信頼される学校」を目指します]</p> <p>①中原中の特色はこれだと自信をもてる取組(魅力ある教育活動)を推進します。 ②総合的な学習の時間を活用した体験活動を充実させ、地域の中の学校としての役割を担うよう努めます。 ③学校からの情報発信を常に心がけます。</p> <p>4 社会性を身につける[自分の意見をしっかり表現できる生徒を目指します]</p> <p>①生徒が中心となった活動を目指し、活力ある集団づくりを推進します。 ②心で(あらゆる)場面であらゆる思いあきらめができる生徒を育成します。 ③キャリア在り方生き方ノート等を有効活用し、自己肯定感・自己有用感を培います。</p> <p>5 健康な生活を心がける[「安全」「安心」な環境を整備します]</p> <p>①自らの判断で行動し安全を確保できる生徒を育成します。 ②かけがえのない命を大切にできる生徒を目指し、その実現のために生徒が中心となった教育活動を実践します。 ③給食の開始に伴い、特に食育に力を入れて取り組みます。</p>	<p>1 学校経営の基本的な考え方「チーム中原 伝える・つなぐ・積み上げる」</p> <p>1 中原中学校は生徒の学びを大切にします 2 中原中学校は生徒一人ひとりを大切にします 3 中原中学校はいつでもどこでもだれでもつながりを大切にします</p> <p>・自分の意見を伝える ・自分のことばで伝える ・自分の思いを伝える ・生徒・教職員・保護者・地域をつなぐ ・未来に向かって思いをつなぐ ・一つ一つのことを確実に積み上げる ・一つ一ついいねい実践する</p> <p>2 特に重点にしたいこと</p> <p>①「心」であいさつのできる生徒の育成 ②道徳の研究推進校の取組(本発表に向けて) ③一人一人を大切に所属感を高める(自己肯定感、自己有用感を培う) ④創立70年目の中原中として特色ある取組を進める ⑤学校経営方針の具現化を目指す</p>

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1	<p>教育課程学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の研究推進に取り組む、道徳の授業研究をとおして授業力向上に努めることができた。 ・ユニバーサルデザインを意識し、だれにとってもあった方がよい支援について考え共通理解を図った。 ・コミュニケーション能力の育成を図るために「4人組など小グループによる話し合い活動」を取り入れるような学習活動を工夫した。 ・定期、不定期とも学習会を実施した。参加生徒は多くないが、「勉強がわかるようになりたい」という生徒が継続して参加している。 ・保護者対象に教育課程説明会を実施するとともに、授業参観時の参観資料の工夫を図った。 	<p>・道徳の授業研究は計画的に行なったが、他の教科や領域の研究ができなかった。道徳の授業をとおして学んだことは大きいのが、今後他の教科等の授業力向上も目指していきたい。</p> <p>・対話的、主体的な深い学び(アクティブラーニング)についてどのように授業に取り入れていかを研修したい。</p> <p>・授業が生徒にとってわかりやすいものになるように、職員同士がアドバイス合うことにより、授業力向上の意識が高まった。</p> <p>・通常級における特別な支援を要する生徒のための支援については継続していきたいが、だれにとってもあった方がよい支援について研修を積み上げていきたい。</p>	<p>・年間計画に授業研究会をきちんと位置付けして、その都度ねらいをもって授業研究会を実施し授業力向上を図っていく。</p> <p>・特別支援教育コーディネーターのマネジメント能力により教育サポーターの有効活用等により取り出し、放課後支援をさらに充実させる。</p>
2	<p>生徒指導人権教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生徒を大切に教育活動を進めることにより、生徒にも他者を思いやる心が育っている。 ・すべての学年で学級委員会が中心となっていじめ防止の取組を進めており、生徒の言動に改善が見られた。 ・生徒会本部が中心となつて「なつ中スマイルプロジェクト」を行った。 ・不登校生徒への支援として、家庭訪問や保護者との連携強化、さらにSCやSSWの活用、外部機関との連携も図った。 	<p>・中原中の長所・強みである「あいさつ」ができなくなりつつあると指摘されている。生徒会本部による「なつ中スマイルプロジェクト」をさらに推進し、委員会活動の活性化を目指し、生徒が元気に「あいさつ」ができるよう取組を進めていきたい。</p> <p>・これまでのつながりをベースに地域行事に積極的参加する等、大切な活動として位置づけています。子育てサロン、文化教室など子どもたち自身も地域に支えられて学校生活を営むことができているのをこれを継続させたい。</p>	<p>・いつでも挨拶が気持ちよくできる等、基本的な生活習慣を今後も大事にして指導に当たる。</p> <p>・教育相談等を活用し、生徒理解に努める。</p> <p>・不登校生徒に対しては、今後も担任だけでなく学年、全校が協力して対応し、必要に応じ外部機関の協力も得てその改善に努める。</p>
3	<p>進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の実践的な取り組みとその推進を図った。 ・職場体験学習の実施を推進した。 ・キャリア在り方生き方教育を意識しながら、様々な活動を展開した。 	<p>・地域の理解や協力により、職業講話、職場体験、福祉体験を実施し働く目的と意義の理解、自己実現のための方策に取り組んだ。</p>	<p>・キャリア在り方生き方教育の実践にむけてさらに研修を進める。</p> <p>・働く身近な大人を講師として招いて講演会を実施する。</p> <p>・職場体験では、地域との連携をよりいっそう深めるために事前指導等丁寧な指導に努めたい。</p>
4	<p>保健管理環境整備安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防教室や性に関する指導等で外部人材を活用した健康教育を実施し、定着しつつある。 ・生徒の委員会活動として「保健委員会による風邪・インフルエンザ予防のキャンペーン」「昼休みの食クイズ」「体育委員会によるミニ体力測定企画・実施」等を実施した。 ・防災マニュアルを整備し、災害発生時の対応や安全対応マニュアルを周知徹底した。 ・施設・設備の整備、安全教育環境づくりの推進を図った。 	<p>・外部人材を活用した健康教育が定着しつつある。</p> <p>・生徒が中心となって委員会活動を推進することができた。</p>	<p>・防災訓練の継続的な実施と効果的な実施に向けての検討を進める。</p> <p>・基本的な生活習慣の確立には、テーマを決め生活の振り返りができるようにする。</p> <p>・普段の清掃活動、委員会や部活動においても美化活動に積極的に取り組む姿勢があるので、この姿勢を大事に育みたい。</p>
5	<p>特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援の授業等に多くの職員が関わり、全校協力体制による適切な支援を行った。 ・個別支援計画の充実を図った。 ・通常級における特別な支援を要する生徒についての相談体制を構築し、放課後の取り出し等について計画実施した。 	<p>・毎月職員会議において特別支援教育に関する情報提供を行った。</p> <p>・通常級に在籍する支援の必要な生徒への支援のあり方は、課題として残っている。</p>	<p>・通常級に在籍する支援の必要な生徒への支援のあり方を研修する。</p> <p>・特別支援教育コーディネーターが中心となって情報の一元化、学年の情報交換等を行っているが、その一つ一つの課題が大きいこともあるので、ケース会議を行いながら事例研修を積み上げていきたい。</p>
6	<p>組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の5つの柱に基づいた教育活動を推進するために、校務分掌を見直して役割分担を明確にした。 ・サインズ(パソコン)に共有フォルダを作り情報の共有に努めた。 	<p>・担当職員が自覚と責任を持って職務を遂行できるように努めた。</p>	<p>・より効率的に業務が運行できるような運営組織の活動内容の再確認を行う。</p>
7	<p>特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を中心とした活動 ・プログラム委員会を中心とした組織づくり ・生徒が中心となった行事等の運営 	<p>・生徒が中心となって活動できるような環境づくり、組織づくりに努めた。</p>	<p>・リーダー養成に加え、日々の生活の中で一人一人の活躍を支援し、自己肯定感をもち、生徒相互の良さが伝わるよう工夫していく。</p>
8	<p>保護者・地域住民等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加や体験学習の実践を通し、保護者、地域の方との交流を継続実施した。 ・PTA等との諸活動の連絡・連携を図った。 ・学校教育推進会議からの意見、提言の活用を図った。 ・小中連携や保護者、教職員による「三校交流会」の実施を継続した。 	<p>・学校行事の際には二つの小学校の6年生にも案内を出し来校を呼びかけた。</p> <p>・保護者、地域の方々の協力による文化教室や防災訓練等を実施した。</p>	<p>・行事等で保護者が来校した折には今後も授業参観等ができるようにする。そのPRも継続していく。</p> <p>・地域との協力体制の強化のため、折に触れ情報交換をしていきたい。</p>
9	<p>情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年だより、学校だより、及び学校HPによる情報の発信を継続して行った。 	<p>・学年だより、学校だよりは定期的に発行した。また学校HPを定期的に更新することで学校の情報を広く知らしめることができた。</p>	<p>・学校だよりの発行は保護者の学校理解・信頼につながるもので今後も継続していく。</p>
10	<p>学校評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の充実 ・PDCAサイクルの検証と評価方法の改善 	<p>・アンケートのみに頼るのではなく、保護者や地域・教員の生きた声として、「評価できる点」「疑問点・改善点」等について直接意見を聞いたり、対話をする会を設定し、その内容をふまえて学校評価に活かしている。</p> <p>・生徒の声については、代表生徒で話し合う機会を設け、その結果を学校評価に活かしている。</p>	<p>・学校評価の資料をもとに、学校評価委員会での意見については、今後の教育活動にしっかり反映させていく。</p>
<p>学校関係者の評価</p> <p>「あいさつ」をする生徒が増えているということは残念であるが、今後も継続して取り組んでほしい。</p> <p>・地域行事への生徒の参加を今後も継続してほしい。</p> <p>・登下校のマナーでは今後も気を遣ってほしい。場面に適切に対応できる指導をしてほしい。</p> <p>・この地域の中学生は穏やかに生活できていると思うがその背景として、中原区で取り組んでいる子育てサロンのボランティアの取組も効果的だと思う。</p> <p>・地域全体で子どもたちを見守るという体制があり、学校が愛情をもって生徒たちと教育活動を展開しているので今後もこの雰囲気が続くようしてほしい。</p>		<p>今年度のまとめ・次年度へ向けての取組</p> <p>・授業計画に沿った授業のねらいがはきりした授業展開を行う。そのための校内研修を実施し、教員の授業力向上、工夫、改善が図られるようにする。</p> <p>・生徒理解、相談活動に重点を置いた生徒指導を継続して行う。</p> <p>・特別支援教育については全校体制で取り組むことを確認し、通常級を籍して特別な支援が必要な生徒への対応についても校内体制の強化を考えていく。</p> <p>・組織運営ではそれぞれがそれぞれの役割を担い責任感を高めるように努める。</p> <p>・保護者、地域から信頼できる学校となるために、開かれた学校として各種たよりをはじめ、連携した取組を進める。</p>	